

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372300901		
法人名	社会福祉法人 樹の里		
事業所名	グループホーム 樹の里		
所在地	愛知県瀬戸市紺屋田町93番106		
自己評価作成日	平成27年 1月 8日	評価結果市町村受理日	平成27年 3月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2372300901-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F
聞き取り調査日	平成27年 2月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然に囲まれ日当たりのよい明るい環境に建ち、特別養護老人ホーム、デイサービスを併設、地域密着型小規模特養やサービス付き高齢者向け住宅を近隣に備えた複合施設です。複合施設の利点である年間行事やレクを行い広く交流を図り、他部署との連携や協力で緊急時の対応及び定期的な研修や事例発表会で職員のスキルアップを図りケアの向上に繋げており、入居者様ご家族様から安心感や信頼感を得られています。入居者様の希望を叶える為、地域の講座や催しに個別に参加し、認知症カフェや認知症教室を開催等、地域との繋がりを大切に入居者様をご家族、職員、地域で共に支えています。季節感を感じて頂ける様献立を工夫し、食べる事は生きる事であるを根底に畑で野菜を育て収穫、調理し、バイキング夕食や出前を計画し、楽しんで食事を味わって頂いています。往診医、職員、薬剤師等連携協力し、体調管理に努め体調不良の方は年間ほとんどみえません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誠実・努力・感謝」を社是とし、「チームアプローチを基に、ご利用者とご家族の方に、安全かつ安心できる最適な生活を提供し、地域社会に貢献します」を経営理念に、年度替わりにはモットーや個人目標を掲げて会議時に唱和しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣中学校の職場体験や短大実習生の受け入れ、幼稚園行事、地域の講座や行事に参加等積極的に交流を行っております。また、定期的にボランティアの受け入れを行い、毎年制作作品は地域の郵便局に展示し施設の紹介をしております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の総会にて認知症の講演を行い、関連施設のサービス付き高齢者向け住宅リビングにて認知症教室や認知症カフェを地域に向け開催し認知症の理解や興味を深め、福祉に関心を持って頂けるよう努めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域(民生委員、老人会)行政(市役所、地域包括)、同業者、御家族、入居者様に参加して頂き活動報告後活発な意見や要望を受け、頂いた意見はGH会議で話し合い職員全員が周知出来る様にし、不参加の御家族には郵送しております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に委員として参加して頂き、常に報告、連絡、相談等で双方向的な関係作りに努めております。研修講師の依頼の相談やリサイクルセンターからの材料提供で手芸教室の開催などで継続して協力関係を構築しております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心として「身体拘束廃止に関する指針」に基づき業務マニュアルにも取り入れ、入居者様の尊厳を大切にプライバシーに配慮したケアに心がけております、定期的に研修を行い身体拘束を正しく理解し、不適切ケアのチェックを行う事で振り返りを行っております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画の中で定期的に身体拘束と関連づけて高齢者虐待防止関連法について学ぶことで理解を深め、虐待となりうる可能性のある不適切ケアについて常に話し合い振り返りを行い防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見人」や「日常生活自立支援事業」についてGH会議内で勉強会を行い理解を深めております。以前活用されていた御家族の例をあげて説明する事でより判り易く身近な事として認識出来ており必要時活用できるよう努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明マニュアルを用いて十分な時間をかけ丁寧に説明しており、不安や疑問を質問しやすい雰囲気や努め金銭面については特に判り易く説明し同意を得ております。また起こりうるリスクや退居を含めた事業所の対応も詳しく説明しております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者様や御家族様に参加して頂き地域の方や行政の方も交えて意見や提案を伺いつつ、面会時や電話、封書で行事参加や日常の様子を伝える事で気軽に意見等を話しやすい雰囲気作りに努め運営に反映させております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チームワークを大切にし気軽に意見が言える環境を整え、月1回のGH会議での意見や提案を全体会議にて報告しております。また、年2回個別面談を行う事で職員の思いや要望を抽出し前向きにとらえ運営に反映させております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の導入、資格取得や奨励できるケアを行った職員に向け表彰制度を設け意欲や向上心が持てる様支援しております。安全衛生委員会を設け定期的に健康診断や腰痛予防対策を行い、働きやすい環境作りに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修に出来るだけ参加し、参加出来なかった職員に伝達する事で知識向上を図り、外部研修後GH会議内で勉強会を行いケアの質の向上を図っております。研究や事故、看とりの事例発表も行いケアの振り返りも行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な同業者と交流会を行い、意見交換や同時に感染症に対する勉強会も行いコミュニケーションを図りネットワーク作りに努めております。行事や運営推進会議参加を呼び掛けサービスの質向上や悩み等の共有で解決に繋げております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時やホーム見学及び事前面談で御家族やご本人にお会いし生活歴や要望等出来るだけ情報収集し、事前に全職員が情報を共有する事で、ご本人の理解を深め、ご本人自らの希望で安心して入居して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に出来る限り御家族が困って見えることや要望、現在の状況等を詳しく伺い、入居当初は電話で様子の報告や面会時にケース記録をコピーしお渡しする事で安心感や信頼感につなげられるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話相談時や入居申し込み時に現在困ってみえることや不安をゆっくり伺い、他事業所の紹介をしつつ必要なサービスは何かを共に考え助言を行っております。場合によっては他事業所と連携を図り適切な対応が出来る様努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人一人の強みやADLを日々の会話の中から把握し、役割を持って頂く事で生活意欲のアップを図り、経験豊かな入居者様から知恵や工夫を教わり感謝の気持ちを表す事で互いに支え合う信頼関係が築ける様に努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子や体調等を電話や封書(写真同封)、面会時に報告相談することで共に入居者様を支えていける様努め、また行事やレク、会議等案内し、入居者様と一緒に楽しんで参加して頂ける様工夫計画しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様と共に行きなれた美容院やご自宅に外出されたり、親しい友人や親せきの方々の面会や顔見知りの方との交流等継続的に繋がりが持てるよう働きかけております。また、なじみの場所への外出等で昔の事を回想されております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の様子から入居者様の関係性を把握し職員間で共有し、気の合う入居者様同士の交流の場面を作り円滑に関わり、支えられる環境作りに努めております。又、入居者同士出来ない所を出来る方が支える関係性を大切にしております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了しても、なじみの入居者様と共に面会に行き会話を楽しみ、行事の時に御家族様も含めて交流を継続しております。職員間で情報交換を常に行う事でケアの工夫等の継続的フォローを行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎年入居者様の希望や要望を叶えるを年間目標として日々の関わりの中で言葉や表情等から思いをくみ取り、御家族様や関係者からも情報を得つつ協力頂き出来るだけ希望に添えるよう努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や以前の暮らし方やエピソード等の情報収集を御家族様や関係者から常に行う事でご本人様の全体像をより明確に捉える様努めております。又、日々の会話の中で回想法を用いて情報を得、全職員が情報共有できる様努めております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやケース記録にセンター方式を利用し入居者様一人一人の生活リズムを把握し、業務前には必ず記録に眼を通し現状の把握に努めております。必要時ケアカンファレンス等で話し合い入居者様本位のケアに繋げています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様は日々の生活の中で、御家族様には面会時や電話等で要望や意見を伺い、定期的にモニタリング、アセスメントやカンファレンスを行い状況にあったケアプランを作成しており、状況変化に伴い計画を見直し適切ケアが出来る様努めております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別のケース記録を用いて、日々の様子や発語を記載し、連絡ノートと共に業務前に確認し情報共有や現状に適したケアに生かせるよう努めております。また、介護計画を見直すツールとして活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の様々なニーズに柔軟に対応できる様情報のアンテナを張り巡らせ、相談や検討、工夫出来る限りニーズに応えられるよう取り組み個々の満足度を高める様努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の民生委員や老人会、包括支援センターの参加により情報交換や協力関係を築いており。地域に向け認知症教室やカフェを開催し参加頂き交流を図り、認知症の理解を深め安心して地域で生活できる様努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や御家族様の希望される医療機関に受診でき、定期的に協力医療機関の往診(月2回)必要時訪問歯科や眼科往診診療も受けられます医療機関と連携を図り健康の維持管理や異常の早期発見対応に努めております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を持つ職員や協力医療機関にて24時間オンコールで医療連携体制を整え対応しております。異常を感じたら直ちに報告指示を受け速やかに適切な対応をすることで早期回復に繋がっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族様と協力しつつ安心して治療が受けられ入院による環境変化の影響が少なくなるようになりみみの入居者様とお見舞いに訪れ不安の解消を図っております。医療機関と連携を図り情報交換や相談に努め、速やかな回復や退院支援に向け働き掛けております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時御家族や入居者様に重度化された場合や終末期のあり方の希望を伺い、重度化対応指針に同意を頂いております。、医療連携体制を整える事で日々安心して生活して頂ける様又必要時意思確認をしつつ支援しております。職員は看取り研修を受けスキルアップを図っております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを全職員が把握し、定期的に緊急対応研修や地域の消防署の協力により救急講習を行い実践力を身につけております。G H内で必要な緊急対応が出来る様勉強会を行い実践力アップを図っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で夜間想定も含め年4回避難訓練を計画し、入居者様が安全に避難できる様訓練しております。大災害時の地域協力体制も整え、法人として避難場所の提供や備蓄の管理、建物の安全確保に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務マニュアルの中にプライバシー保護の配慮を取り入れかつ定期的に倫理法令やプライバシー保護の研修を受けることで、守秘義務の重要性や人権意識を認識し、声掛けや対応に工夫しております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人一人の希望に沿ったレクや趣味の時間を提供し、個別に自己決定しやすい声掛けや対応を行っております。難聴の方にはホワイトボードを用いて筆談で理解して頂ける様対応し思いの表出が出来る様関わっております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本となる流れはあるが一人一人の体調やペースに合わせてできるだけ入居者様の希望に添える様努めております。入居者様個々が得意分野で役割を持って頂き、感謝の意を表すことでいきいきと生活できる様支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様やご家族様の希望により訪問美容で散髪や毛染めを行っております。衣類の選択は必要時介助しつつご本人に行って頂き、定期的に足や手の爪切りや耳掃除を職員や介助にてご自分で行って頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好きな物を選択できるバイキングやホーム畑で入居者様が収穫した野菜をご自分で調理し、御家族も一緒に味わって頂く事で楽しんでおいしく食べて頂ける工夫をしております。片付けも職員と会話を楽しみつつ行って頂いております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食チェックし、栄養士がたてた献立を中心に嫌いな物でも調理を工夫することで食べて頂ける様努めております。水分はお好きな物で摂取回数を増やし積極的に飲んで頂いております。24時間自由にお茶が飲める様準備しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を用いて毎食後居室洗面所にて声掛けや介助で行って頂いております。義歯使用の方は毎晩洗浄剤を用いて清潔保持に努め必要時紛失を防ぐため棚に保管させて頂いております。食後のお茶も必ず飲んで頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助を必要とする入居者様はトイレにカーテンを用いプライバシーの配慮をはかっており、一人一人の排泄パターンや体調等を考慮し声掛け誘導を行っております。汚染時には自尊心に配慮し衛生的に速やかに処理しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝夕に体操を行い身体を動かすと共に好きな飲み物で積極的に水分摂取をして頂いております。献立に食物繊維の多い食材を食べやすく調理し提供しております。デザートやおやつに乳製品や発酵食品等を多く摂って頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人の希望や体調、気分に合わせて声掛けの仕方やタイミングを工夫し気持ちよく入浴して頂ける様努めており、菖蒲湯、ゆず湯など四季折々の行事で気分転換して頂ける様工夫しております。福祉用具を用い安全に配慮しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間にレクや外出を積極的に行う事で生活リズムを整え、安眠に繋がる様努めております。寝具を定期的に交換や天日干し乾燥を行っております。1人1人の体調を配慮し昼間の休息を促しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬使用者の内服、外用薬の説明書はすぐに確認できる様ファイルしてあります。変更時は口頭申し送りと連絡帳に注意事項を記載し全職員に周知徹底と状態観察に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の経験や得意な事を活かし役に立つ事で生きがいを持って生活して頂ける様努めております。又、個別にお好きな事、気分転換等を考慮してレクや行事を共に計画し実施しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人の希望を伺い、体調や気分、歩行能力を考慮しながら積極的に外出の機会を設けて安全に無理なく支援しております。又、御家族様との外出をサポートしたり、地域の講座等にも主催者様の協力を得て参加しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族や入居者様の希望により小額のおこずかいを所持されたり、一定金額を預かり事務所管理しております。外出時個別性を考え不安の無い方法で支払が出来る様支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば周りを気にせず会話が楽しめる環境に配慮しております。面会が難しい御家族様には様子をお知らせする(写真同封)際に入居者様直筆の手紙を同封しております。届いた手紙等は説明し手渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有リビングには入居者様が制作された季節感の感じられる作品や、活動(外出、行事)の様子の写真等を飾る事で会話が楽しめる空間を作っております。換気、温度や湿度管理はチェック表を用いて定期的に行い、環境調節を行っており、トイレ清掃も定期的や必要時行っております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有リビングでは1人1人が好きな事ややりたい事が出来る環境(本棚やレク棚)を整え、気の合う入居者様同士や1人で過したい方それぞれにあった席の配置を工夫し、不安無く自分の居場所の確保が出来る様配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族や入居者様と相談しつつ、使い慣れた家具、寝具や仏壇をご自宅から持参して頂き居心地の良い環境を整えております。入居者様がご自分の居室が判り易いよう、ご本人の写真や表札を付け不安の無い様に支援しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の身体状況(聴覚、視覚、歩行や排泄状況)に合わせ、家具や家電、席の位置を工夫し残存機能を活かし自立した生活が出来る環境作りに心掛けております。ヒヤリとかんじたことは会議にて話し合い安全の確保に努めております。		